

# 2008年3月期 決算説明会

- 業績の概況と新体制による基本方針  
キョーリンMIC-'09計画と2008年度の経営方針
- 業績の状況と見込み  
08年3月期の業績と09年3月期の見込み  
および日清キョーリン製薬の統合効果
- ActivXの活動について

2008年5月15日  
株式会社キョーリン



# 2008年3月期 決算説明会

- 業績の概況と新体制による基本方針

  - キョーリンMIC-'09計画と2008年度の経営方針

- 業績の状況と見込み

  - 08年3月期の業績と09年3月期の見込み

  - および日清キョーリン製薬の統合効果

- ActivXの活動について

2008年5月15日

株式会社キョーリン

代表取締役社長 古城 格



# 2008年3月期 決算概観(連結)

## 08年3月期 連結業績(実績)

売上面では、国内新医薬品が新製品の発売、主要製品の効能・効果追加取得および一時金収入の増加により好調に推移し、連結売上高811億円(前年比5.2%増)となりました。

利益面では、売上高は増収となったものの、研究開発費並びに新薬上市に伴う販売費の増加等により販売費及び一般管理費が増加した結果、営業利益は63億円(前年比25.7%減)、当期純利益は22億円(前年比54.8%減)の減益となりました。

## 09年3月期 連結業績(予想)

売上面では、国内新医薬品において主要製品の売上拡大が予想されるとともに、08年10月に実施予定の日清キョーリン製薬(株)との統合等により連結売上高は904億円(前年比11.5%増)と伸長する見込みです。

利益面では、販売費等の抑制および日清キョーリン製薬(株)との統合による経費の削減効果に取組み、研究開発費を除く販管費率の低下を見込みます。その結果、連結営業利益80億円(前年比28.0%増)、当期純利益49億円(前年比123.8%増)を見込みます。

単位: (百万円)	05年3月期	06年3月期	07年3月期	08年3月期	前年比
売上高	66,296	74,054	77,093	81,070	5.2%
営業利益	5,866	8,989	8,413	6,251	▲25.7%
経常利益	6,430	9,465	8,655	6,643	▲23.2%
当期純利益	2,013	5,228	4,842	2,189	▲54.8%
EPS	26.48円	69.74円	64.97円	29.26円	▲55.0%
総資産	109,234	121,044	124,039	122,398	▲1.3%
純資産	90,544	94,752	98,178	97,184	▲1.0%

09年3月期 (予想)	前年比
90,400	11.5%
8,000	28.0%
8,400	26.4%
4,900	123.8%
65.49円	123.8%
—	—
—	—

\* 06年3月期業績(連結)までは杏林製薬(株)の数値、07年3月期以降の業績及び09年3月期予想は(株)キョーリンの数値

## 企業理念

「キョーリンは生命を慈しむ心を貫き、人々の健康に貢献する社会的な使命を遂行します」

## 目指す企業像

「グローバルな創薬ビジネスをコアとし、信頼をベースとした特色ある複合ヘルスケア企業」

## 中期経営計画

「キョーリンMIC - '09計画」

■現在推進中のキョーリンMIC計画を継続する  
「より公明性・公正性・透明性の高い経営に取り組む」

# 新社長としての基本姿勢

社員の意欲・やりがいを醸成し、いきいき創造的な業務推進に取り組めます

顧客志向(顧客重視)により売上拡大、利益向上に努めます

株価の上昇

企業価値の向上

株主重視の経営を推進します

## キョーリンMIC - '09計画 (2005年度～2009年度)

### ■目指す企業像:

「グローバルな創薬ビジネスをコアとし、信頼をベースとした  
特色ある複合ヘルスケア企業」

### ◆基本方針:「進化と創造Ⅱ」

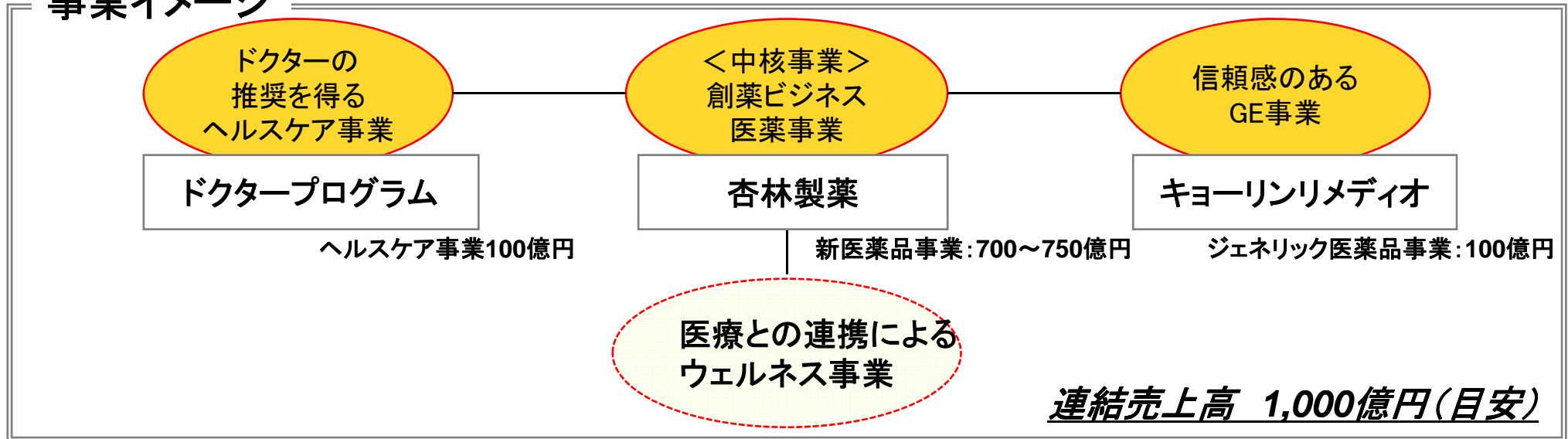
### MIC - '09計画 基本戦略

- ① グローバル創薬企業としてのポジショニングの確立
- ② 創薬投資を支える医薬事業の競争力確保
- ③ 医薬事業に次ぐ将来を担う新規事業の構築

目標値: ROE 7.0% 後期開発品 年1品目

# キョーリンMIC-'09の目指す企業イメージ

## 事業イメージ



- 新薬事業は順調に推移している
- 周辺事業に遅れが生じている

- 日清キョーリン製薬との事業統合により新薬事業の成長を加速させる
- 周辺事業では赤字を解消し着実な成長を図る

「キョーリンMIC-'09計画」の目標達成に向け、08年度は05~07年度  
の取組みで明確になった諸課題に修正を加える年とする

# 2008年度の経営方針

## 2008年度経営方針

### 新軌道による成長路線の確保

—新薬事業の成長加速と周辺事業の地力の養成—

#### 重点項目

##### ■ブランド重視の経営を推進

・グループの一体感の醸成を図る

##### ■統合効果の最大限の発揮

1. キョーリン製薬の事業基盤強化による成長力の向上・加速を図る
2. グループ各社の経営基盤、事業強化に向け一層の支援を行う
3. 日清キョーリン製薬(株)統合によるシナジー効果を発揮する



# 新薬事業の加速(1)

FC戦略

卸店政策

国内営業力を更に強化する

FC戦略:呼吸器内科、耳鼻科、泌尿器科に営業資源を重点化する戦略



日清キョーリン製薬統合によるシナジー効果の発揮

MR数の拡充  
650名から750名体制へ

定期訪問医師の拡大  
約70,000名 (3,000名増)

日清キョーリン製薬との統合による売上増



既存品の数量ベースでの増加率10%以上を目指す

(08.3実績) (09.3予想)

国内新医薬品売上高 633億円⇒708億円

# 新薬事業の加速(2)

## F C 3 科の強化 ～導入品の獲得～

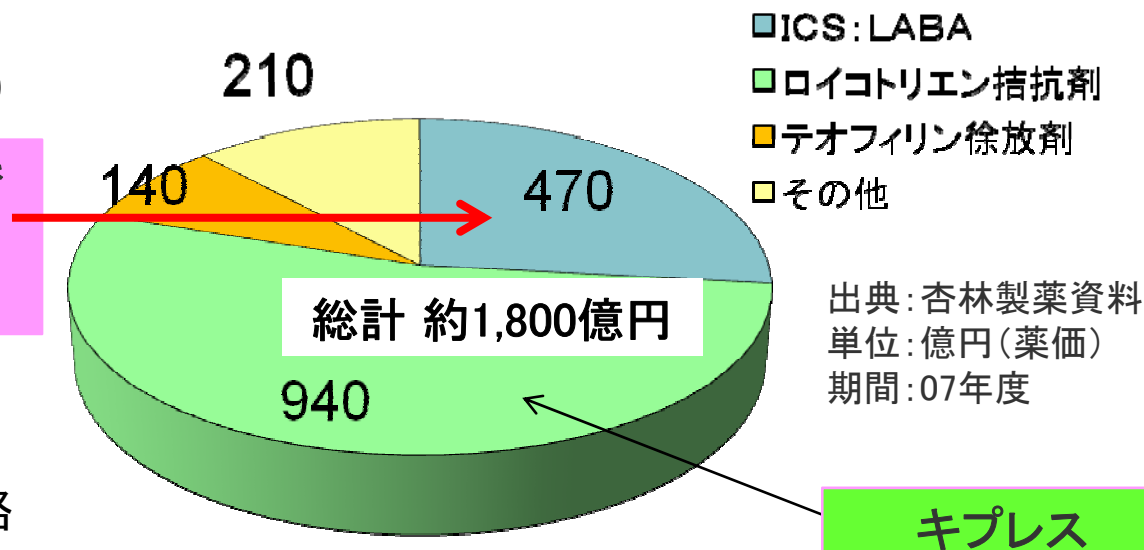
### 喘息治療薬Flutiform (KRP-108)の導入

- ・08年4月22日 英国SkyePharma社と国内ライセンス契約締結
- ・吸入ステロイドと長時間作用型β作動薬の配合剤

### 喘息市場の現状(長期管理薬)

Flutiformの開発により喘息市場で2番目に大きいICS、LABA市場への参入を目指す

ICS:吸入ステロイド、  
LABA:長時間作用型β作動薬の略



喘息領域で更なるプレゼンス向上を目指す

# 周辺事業の支援・強化 後発医薬品事業

## キョーリンリメディオ

	05年5月期 (子会社化前)	06年1月期 (実績:8ヶ月分)	07年1月期 (実績)	08年1月期 (実績)	09年1月期 (予想)
売上高	65	44	69	60	77
営業利益	0	3	2	▲7	1
当期純利益	▲1	2	▲0	▲14	▲0

## 08年1月期の状況

- ・売上高は前年に実施した品目整理(約450品目⇒約200品目)の影響、受託製造品の減少、追補品の計画未達により減少
- ・営業利益は原価率の上昇およびR&D費の増加等により▲11億円となった

## 今後の取組み

	2008年1月期	2009年1月期計画	2010年1月期以降
営業力の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・30名から42名に増員</li> <li>・卸店販売ルートの整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キョーリン製薬、日清キョーリン製薬GE品移管で約10,000軒の製品納入先確保</li> <li>・MR体制:70~80名体制構築</li> <li>・卸店販売ルートの確保 推奨メーカー入り(東邦薬品、アルフレッサ)</li> </ul>	広域卸ルートの売上拡大 目標売上ウェイト 卸店:販社 30:70
原価率の低減	キョーリン製品の製造品のうち3品を生産移管(通算6品目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キョーリン製薬主要製品の受託生産を開始</li> <li>・主要製品、追補品売上拡大による稼働率UP</li> <li>・コストの圧縮(約1億円)</li> </ul>	キョーリン製薬の生産移管 20品目以上を目指す
品揃え	1品目2規格追補(販売:4品目7規格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キョーリン製薬(3品目)、日清キョーリン製薬(12品目)GE品移管による売上増(約5億円)</li> <li>・追補品:7品目を予定</li> </ul>	10品目以上の追補を目指す

製品納入先の拡大と原価率低減により地力養成を図る(09年1月期黒字化を目指す)

# 周辺事業の支援・強化      ヘルスケア事業

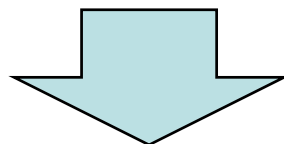
## ドクタープログラム

	05年6月期 (実績)	06年1月期 (実績:7ヶ月分)	07年1月期 (実績)	08年1月期 (実績)	09年1月期 (予想)
売上高	5	8	28	34	40
営業利益	0	0	3	▲3	1
当期純利益	0	0	2	▲4	0

## 2008年1月期の状況

### ◆高い成長を期待し積極的な投資を行ったが、売上は未達した

- ・顧客の掘り起こし、顧客転換率のアップに取り組むも、売上計画は未達した
- ・売上未達による粗利の減少と事業インフラ整備、体制強化に伴うコスト増により当期は営業損失となった



## 2009年1月期の取組み

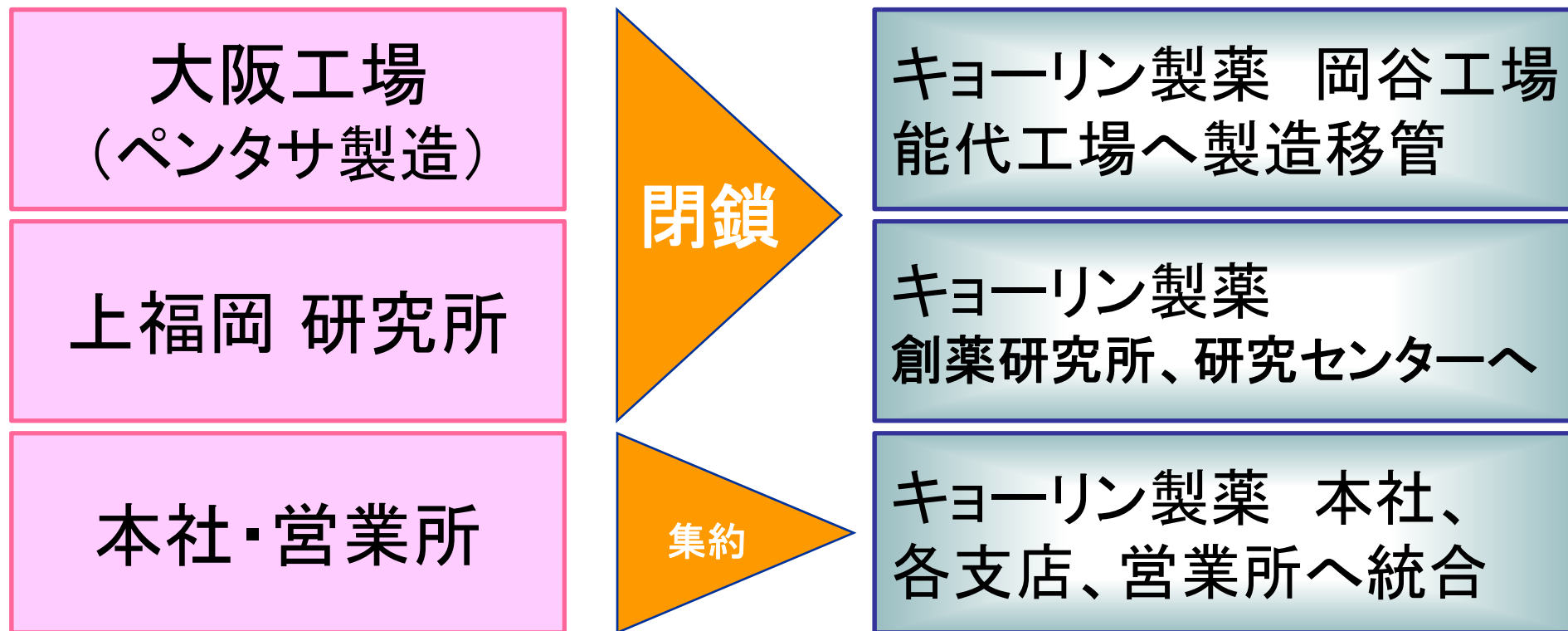
### ◆着実な成長を図り、その成長に見合った経費を投入する

- ・顧客名簿増加、転換率拡大に継続的に取り組む
- ・事業基盤強化に向けキョーリンとの連携強化を図る

### ◆新製品の発売、リニューアルを最小限にとどめ、前年に実施したリニューアル製品の定着を図る

# 日清キョーリン製薬の統合効果

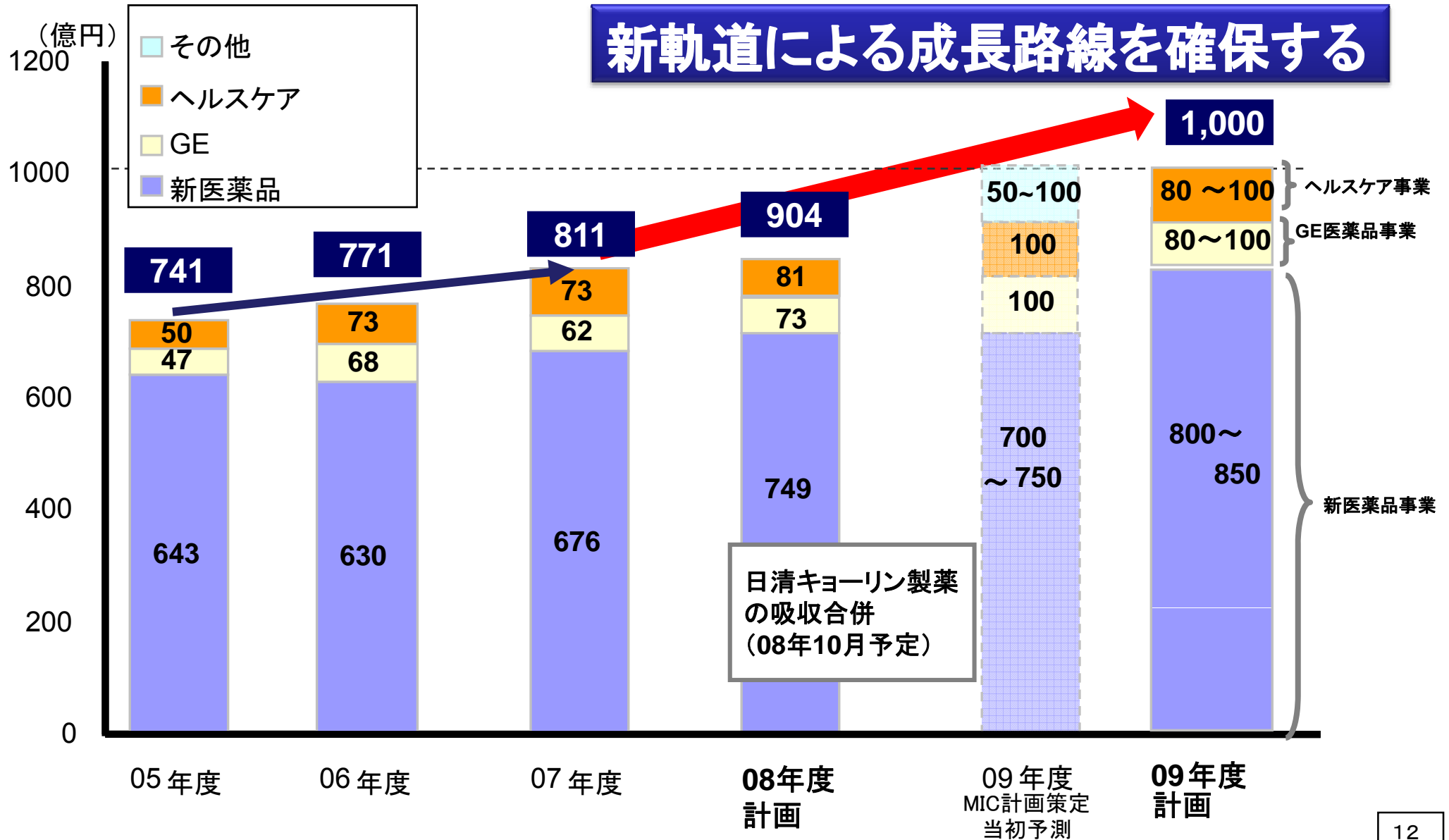
## 設備と人員数



人員は300名から190名に減少、各施設の統合により  
年間8～10億円のコスト削減を見込む

# 連結売上高のイメージ

**新軌道による成長路線を確保する**



# 2008年3月期 決算説明会

- 業績の概況と新体制による基本方針  
キョーリンMIC-'09計画と2008年度の経営方針

- 業績の状況と見込み

08年3月期の業績と09年3月期の見込み  
および日清キョーリン製薬の統合効果

- ActivXの活動について

2008年5月15日  
株式会社キョーリン  
取締役常務執行役員 穂川 稔



# 2008年3月期 業績の状況(連結)

前年比



単位:億円

	07年 3月期 (実績)	08年 3月期 (実績)	対前年 増減
売上高 合計	771	811	+40
◆新医薬品	630	676	+46
国内	572	633	+61
海外	58	43	▲15
◆後発 医薬品	57	51	▲6
◆ヘルスケア	73	73	±0
◆その他	11	11	±0
営業利益	84	63	▲21
経常利益	87	66	▲21
当期純利益	48	22	▲26

■売上高	811億円			対前年 (+40)
●国内新医薬品	633億円			(+61)
		07.3実績	08.3実績	
・ムコダイン		204	⇒ 212	(+4)
・キプレス		150	⇒ 191	(+41)
・ペンタサ		80	⇒ 88	(+8)
・ウリス(新製品)		—	⇒ 7	(+7)
*一時金収入が増加、その他売上が減少				
●海外新医薬品	43億円			(▲15)
・ガチフロキサシン		32	⇒ 30	(▲2)
*BMS社テクイン販売中止、アラガン社ザイマーは続伸				
・その他		22	⇒ 10	(▲12)
*一時金収入の減少				
●後発医薬品	51億円			(▲6)
*品目整理の影響、受託品売上の減少(重点商品の売上は伸長)				
●ヘルスケア	73億円			(±0)
・ミルトン		21	⇒ 19	(▲2)
・ドクタープログラム社		28	⇒ 34	(+6)
●その他	11億円			(±0)
◆原価率:前年比0.5ポイント低下				(39.7%⇒39.2%)
低下要因:自社品の新発売及び一時金収入の増加、能代工場減価償却費の減少				
◆研究開発費率:前年比2.2ポイント上昇				(11.2%⇒13.4%)
*86億円⇒108億円(約22億円増加)				
共同開発品の開発費用の期ズレ等(07.3⇒08.3)				
◆販管費率(除R&D費):前年比1.6ポイント上昇				(38.2%⇒39.8%)
*295億円⇒322億円(約27億円増加)				
新薬上市並びに効能追加による販促費の増加及びドクタープログラムの販売費増加				
■営業利益	63億円			(▲21)
◆営業利益率は7.7%と3.2ポイント低下				
■当期純利益	22億円			(▲26)
*特別損失:約11億円				
*キョーリンリメディオにおける繰延税金資産取り崩し約3億円				
■配当	22円50銭			
*業績と配当性向を勘案し、当初配当予想30円00銭を22円50銭へ修正				



# 2008年3月期 業績の状況(連結)

対予想



単位:億円

	08年 3月期 (予想)	08年 3月期 (実績)	対予想 増減
売上高 合計	834	811	▲23
◆新医薬品	684	676	▲8
国内	642	633	▲9
海外	42	43	+1
◆後発 医薬品	55	51	▲4
◆ヘルスケア	83	73	▲10
◆その他	11	11	±0
営業利益	79	63	▲16
経常利益	85	66	▲19
当期純利益	37	22	▲15

■売上高	811億円			対予想 (▲23)
●国内新医薬品	633億円			(▲9)
		08.3予想	⇒	08.3実績
・キプレス		182	⇒	191 (+9)
・ウリス		11	⇒	7 (▲4)
・ケタス		56	⇒	54 (▲2)
・ガチフロ		25	⇒	23 (▲2)
・その他(ラピッドテストの計画未達)		26	⇒	17 (▲9)
●海外新医薬品	43億円			(+1)
・ノルフロキサシン		2	⇒	3 (+1)
・その他		9	⇒	10 (+1)
●後発医薬品	51億円			(▲4)
* 追補品の売上拡大の遅れ				
●ヘルスケア	73億円			(▲10)
・ミルトン		21	⇒	19 (▲2)
・ドクタープログラム社		40	⇒	34 (▲6)
* 製品転換率、リピート注文の計画未達				
●その他	11億円			(±0)
◆原価率:39.2%	(予想に対し約1ポイント上昇)			
差異要因:プロダクトミクス(原価率の低い自社品売上の計画未達)				
◆研究開発費率:13.4%	* 109億円⇒108億円(ほぼ計画通り消化)			
◆販管費率(除R&D費):39.8%	(予想に対し約0.5ポイント上昇)			
差異要因:売上未達に伴い販管費率は上昇				
* 経費圧縮に取組み販管費は予想を下回る				
■営業利益	63億円			(▲16)
◆営業利益率は7.7%と1.8ポイント低下				
■当期純利益	22億円			(▲15)
* 特別損失:約12億円⇒約11億円				
* キョーリンリメディオにおける繰延税金資産取り崩し約2億円⇒約3億円				
■配当	22円50銭			
* 業績と配当性向を勘案し、当初配当予想30円00銭を22円50銭へ修正				

# 2009年3月期 業績の予想(連結)

単位:億円

	08年 3月期 (実績)	09年 3月期 (予想)	対前年 増減
売上高 合計	811	904	+93
◆新医薬品	676	749	+73
国内	633	708	+75
海外	43	40	▲3
◆後発 医薬品	51	61	+10
◆ヘルスケア	73	81	+8
◆その他	11	12	+1
営業利益	63	80	+17
経常利益	66	84	+18
当期純利益	22	49	+27

■売上高 904億円 対前年 (+93)  
●国内新医薬品 708億円 対前年 (+75)

08.3実績 ⇒ 09.3予想  
・ムコダイン 212 ⇒ 216 (+4)  
・キプレス 191 ⇒ 216 (+25)  
・ペンタサ 88 ⇒ 151 (+63)  
・ウリス 7 ⇒ 20 (+13)

\*薬価改定(約4%)の影響、一時金収入の減少を見込む

●海外新医薬品 40億円 (▲3)

・ガチフロキサシン 30 ⇒ 29 (▲1)

\*アラガン社ザイマーは売上増を見込む(\$98MM⇒\$103MM:現地売上)

●後発医薬品 61億円 (+10)

売上増加の要因:日清キョーリン製薬からGE品の販売移管、追捕品の上市、重点商品の売上拡大

●ヘルスケア 81億円 (+8)

・ミルトン 19 ⇒ 21 (+2)

・ドクタープログラム社 34 ⇒ 40 (+6)

●その他 12億円 (+1)

◆原価率 ほぼ横ばい

\*薬価改定(約4%)の影響、一時金収入の減少により新医薬品事業の原価率は上昇するものの、キョーリンリメディオの原価低減努力等により連結の原価率はほぼ横ばいを予想(上期は上昇、下期は減少を予想)

◆研究開発費率 ……13.4%⇒13.5%:0.1ポイント上昇

研究開発費:108億円⇒122億円(14億円増)

\*日清キョーリン製薬の統合の影響、導入品フルチフォームの契約一時金を計上

◆販管費率(除くR&D費) 約1ポイント低下

\*日清キョーリン製薬の統合に伴い販管費は増加するものの、統合による経費の削減、販売費等の抑制に取組み販管費率(除くR&D費)は約1ポイント低下を予想

■営業利益 80億円 (+17)

◆営業利益率は8.8%と1.1ポイント上昇

■当期純利益 49億円 (+27)

■配当 30円00銭 (予想)

\*配当に対する考え方:配当性向50%を目指す




# 統合効果の最大限の発揮

日清キョーリン製薬  
売上高140億円(08年3月期)

新医薬品 119億円
GE医薬品10億円
その他11億円

合併後の連結業績への影響(年間)

売上高
キョーリン製薬向け の売上を除く 新医薬品 80億円
GE医薬品10億円

-  キョーリン製薬へ統合
-  キョーリンリメディオへ販売移管
-  承継せず

原価率	37%
R&D費	約20億円
R&D除く 販管費	約55億円
営業利益	12億円
当期純利益	6億円

\* 持分法適用会社として50%を  
キョーリンの利益に計上

8~10億円コスト削減を見込む

合併対価  
6月末の貸借対照表に基づく  
時価純資産に超過収益力を加算

# 参考資料

# 開発品一覧①(08年5月14日現在)

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
	(ガルデルマ社 発売中)	塩酸アモロフィン ネイルラッカー	爪白癬治療剤	自社	日本初のネイルラッカー製剤	
	Ph II (04年10月)	KRP-204 (錠)	抗肥満剤	日清製粉	選択性の高いβ3受容体作動薬 従来のβ3作動薬に比べて心への影響が少なく、 肥満を改善することが期待される	日清製粉グループ本社 日清ファルマと共同開発 Ph II a終了
Ph II (07年3月)		KRP-204 (錠)	過活動膀胱 治療剤	日清製粉	β3受容体作動薬 膀胱におけるβ3受容体の活性化により膀胱を弛緩 させ蓄尿機能を高めることが期待される	日清製粉グループ本社 日清ファルマと共同開発 * Ph II a終了
Ph II (05年3月)	(エーザイ) Ph III	AS-3201 (錠)	糖尿病合併症 治療剤	大日本 住友製薬	アルドース還元酵素を強力に阻害することにより細胞 内のソルビトール蓄積を抑制し、糖尿病性神経障害を 改善する	・大日本住友製薬と 共同開発(国内のみ) ・Ph II b(07年9月)開始
	Ph II (04年6月)	KRP-101 (錠)	脂質代謝改善/ 糖尿病治療剤	自社	PPARαアゴニスト。中性脂肪等脂質代謝改善作用に 加えて、糖尿病に対する有効性が期待される	Ph II a終了
* Ph II (08年2月)	Ph II (07年9月)	KRP-104	糖尿病治療剤	自社	DPPIV阻害剤。インスリン分泌ホルモンの分解を抑え ることにより血糖低下作用を示す。副作用の発現が 少ない糖尿病治療が期待される	

\* : 前回(08年3月期第3四半期)からの変更点を示す

\* 気管支喘息においてPh III臨床試験を実施していた「モンテルカスト注射剤」(共同開発先: 万有製薬)は承認申請を見送りました。

# 開発品一覧②(08年5月14日現在)

POCプロジェクト

\*: 前回(08年3月期第3四半期)からの変更点を示す

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
	Ph I (07年7月)	KRP-203	自己免疫疾患、 臓器移植	自社	S1P受容体アゴニスト。新規メカニズムを有する免疫調整剤。既存の免疫抑制剤に比べて安全性が高く、かつ優れた併用効果が期待される	ノバルティス社と ライセンス契約(06年2月)
	Ph I (07年10月)	KRP-105	脂質代謝改善	自社	選択性の高いPPAR $\alpha$ アゴニスト。KRP-101よりもさらにPPAR $\alpha$ 受容体に対して選択性が高い。脂質改善作用に加え、アディポネクチンの増加、レプチンの減少、体重増加抑制作用などが動物実験で確認されており、新たな脂質改善剤として期待される	
臨床試験 準備中	米国:アボット 欧州他: ムンディファーマ Ph III	*KRP-108	気管支喘息治 療剤	スカイ ファーマ社	ステロイド及び長時間作動型 $\beta$ 作動薬の配合剤で利便性やコンプライアンスに優れる	スカイファーマ社と ライセンス契約(08年4月)

# 開発品一覧③(08年5月14日現在)

## 導出品の状況

\*: 前回(08年3月期第3四半期)からの変更点を示す

製品名・ 開発コード	導出先・ 共同研究先	開発段階	薬効	起源	備考
アルファガン/ アルファガンP	千寿製薬	国内PhⅢ (07年7月)	緑内障治療薬	米国 アラガン社	・アラガン社より導入 (ガチフロキサシン点眼液のクロスライセンス) ・千寿製薬に導出(04年5月)
ケタス	米国 メディシノバ社	海外PhⅡ (05年8月)	脳血管障害治療薬	自社	・多発性硬化症の適応での日本、中国、 韓国、台湾を除く全世界における独占的 な開発、製造販売権を供与(04年10月) <u>* 08年4月 PhⅡの結果を公表</u>
KCA-757	米国 メディシノバ社	海外PhⅢ (気管支喘息: 06年11月) 海外PhⅡ/Ⅲ (間質性膀胱炎: 05年5月)	気管支喘息治療薬 間質性膀胱炎治療薬	自社	・日本、中国、韓国、台湾を除く全世界に おける独占的な開発、販売権を供与 ・間質性膀胱炎:07年1月に結果を公表、 開発を中断 ・気管支喘息:海外PhⅢ一旦停止
KRP-203	スイス ノバルティス社	海外PhⅠ (07年7月)	自己免疫疾患、 臓器移植	自社	・移植用の免疫調整剤として、全世界の開発及び 販売権、自己免疫疾患及びその他の疾患用剤と して、日本、中国、韓国、台湾を除く全世界の 開発及び販売権(なお、炎症性腸疾患用剤と しては、全世界の権利を留保している)を供与 (06年2月)

# 過活動膀胱治療剤 ウリトス

## 1. 実績と見通し

2008年3月期	2009年3月期
通期実績	通期予想
7億円	20億円

## 2. 現状

- ◆高需要先への納入が十分進展しなかった
- ※長期処方が出来ないこと、予想以上に厳しい競合

目標とするシェア(ピーク:8~10%)を確保し  
ライフサイクルの長い製品として育成

## 3. 過活動膀胱治療剤市場の状況

	前年比	05年度を1 とした指数
05年度	—	1
06年度	11.4%	1.1
07年度	22.2%	1.4
08年度(予想)	14.0%	1.6

(注)05年度実績は約320億円

## 4. 今後の取り組み

- ★ウリトスの特長を訴求し市場への浸透を図る
  - ①副作用の軽減(口内乾燥、便秘など)
  - ②用法・用量:1日2回服用
  - ③夜間頻尿への効果



# ロイコトリエン拮抗剤 キプレス

## 1. キプレスの実績と見込み

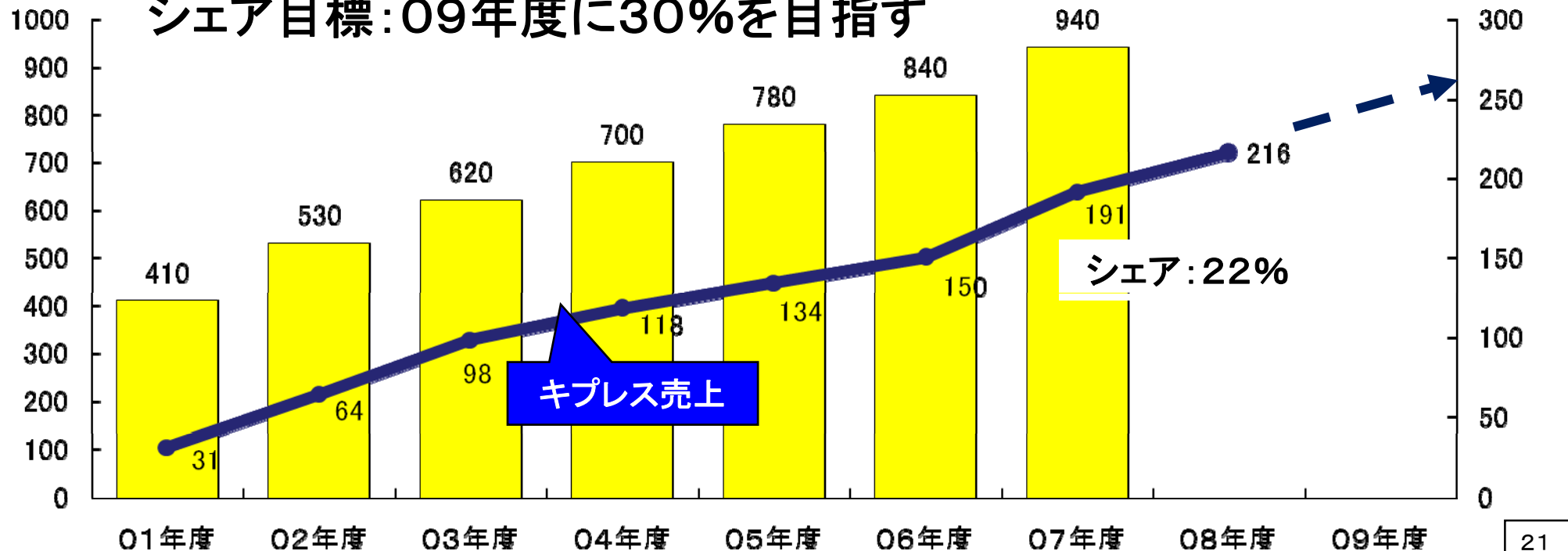
2008年3月期	2009年3月期
通期実績	通期予想
191億円	216億円

## 2. 2008年度の取組み

- ◆小児用剤 細粒4mgの強化
  - ・2008年10月より長期処方が可能
- ◆アレルギー性鼻炎の処方拡大
  - ①安全性(眠気が少ない)の訴求
  - ②用法(1日1回)
  - ③通年性と季節性の鼻炎に処方促進

(億円:薬価)

シェア目標:09年度に30%を目指す



# 気道粘液調整・粘膜正常化剤 ムコダイン

## FC戦略

呼吸器内科、耳鼻科の強化

## LCMの推進

COPD増悪に対するアプローチ

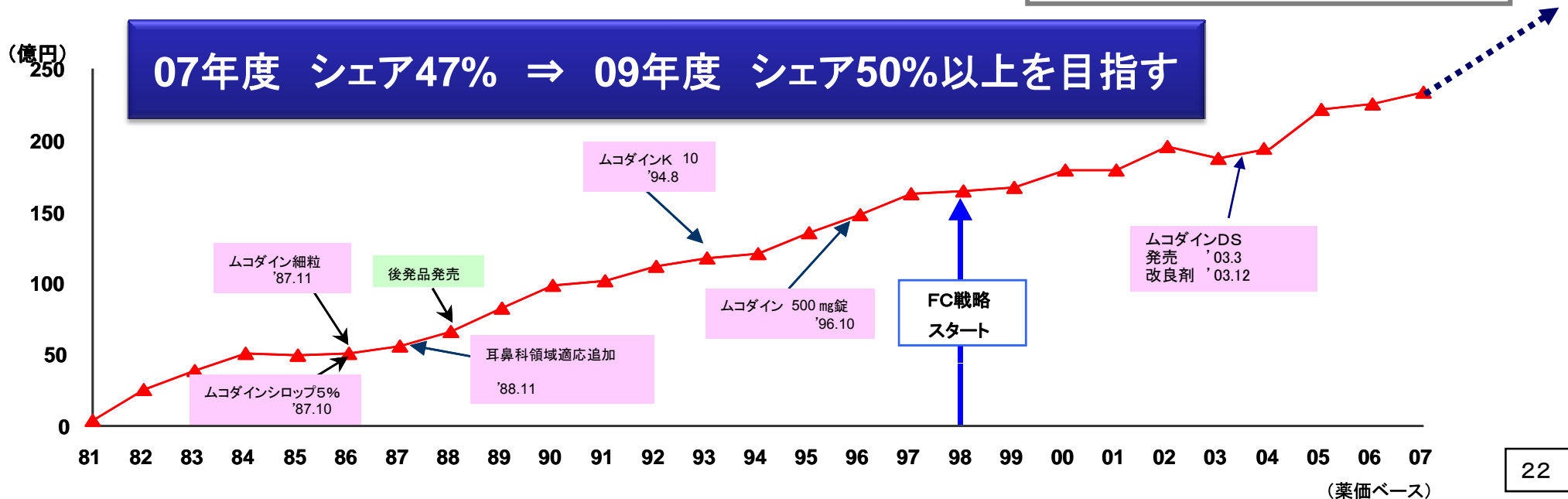
■患者数 約530万人

### PEACE Study

- ◆COPD増悪回数の有意な減少
- QOLの改善
- 感冒の罹患回数の有意な減少
- 「The Lancet」へ掲載予定

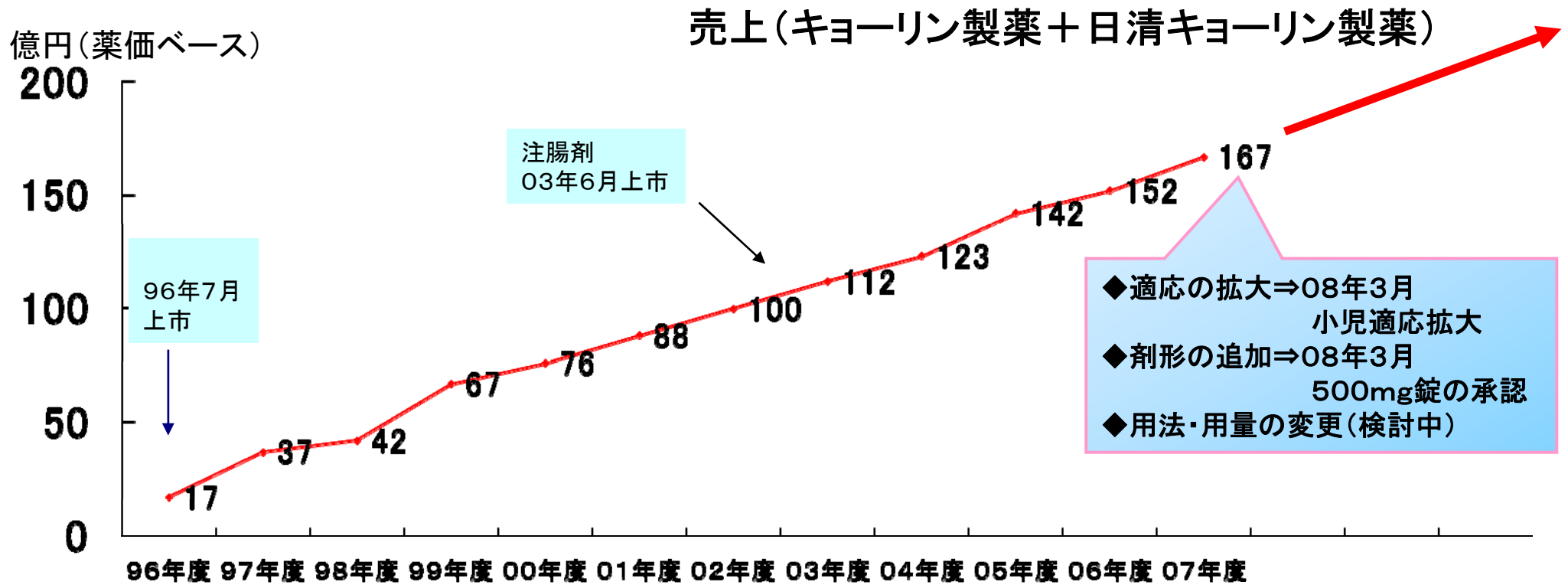
LCM: ライフサイクルマネジメントの略  
FC: フランチャイズカスタマーの略

07年度 シェア47% ⇒ 09年度 シェア50%以上を目指す



# 潰瘍性大腸炎・クローン病治療薬 ペンタサ *Kyorin*

健康はキョーリンの願いです。



中長期的に200億円製品を目指す

# ビストナー事業ファンドの状況

・設立	2000年9月
・出資額	50億円(既出資額 44億円)
・投資状況	既投資先27件、投資額 27億円

対象領域	
創薬関連医薬領域	7件
医療関連領域	12件
健康食品領域	3件
コスメティック領域	3件
環境・その他	2件

## 健康食品領域

セーフテック  
①44百万円  
②無臭大豆粉の製造販売等

ドクタープログラム  
①3,397百万円  
②スキンケア用品の開発・販売

## コスメティクス領域

## 創薬領域

医療電子精工  
①—  
②C型肝炎温熱治療装置開発

## 医療領域

JMA  
①540百万円  
②医療施設・機器賃貸

バイオセレント  
①51百万円  
②バイオ活性産廃分解等

- ①売上高
- ②主な事業内容

## 環境・その他

- ファンドの運用管理強化により、投資先の早期ビジネス化
- ヘルスケア・ウェルネス領域を中心とした投資領域の選択

# 主な子会社の業績と予想

単位: 億円

杏林製薬	07年3月期	08年3月期
売上高	661	705
営業利益	76	69
当期純利益	47	38

09年3月期(予想)
778
76
51

キョーリンリメディオ	07年1月期	08年1月期
売上高	69	60
営業利益	2	▲7
当期純利益	▲0	▲14

09年1月期(予想)
77
1
▲0

ドクタープログラム	07年1月期	08年1月期
売上高	28	34
営業利益	3	▲3
当期純利益	2	▲4

09年1月期(予想)
40
1
0

# 2008年3月期 決算概要

## 財務諸表の概況

# 損益計算書の概要：連結①



(単位:百万円)

	07年3月期		08年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年増減額
売上高	77,093	100.0%	81,070	100.0%	5.2%	3,977
新医薬品	62,951	81.7%	67,631	83.4%	7.4%	4,680
国内	57,188	74.2%	63,296	78.1%	10.7%	6,107
海外	5,762	7.5%	4,334	5.3%	▲24.8%	▲1,427
後発医薬品	5,734	7.4%	5,088	6.3%	▲11.3%	▲646
ヘルスケア	7,273	9.4%	7,296	9.0%	0.3%	22
その他	1,133	1.5%	1,054	1.3%	▲7.0%	▲79

## <適応範囲及び持分法の適用について>

連結子会社9社：杏林製薬(株) (株)杏文堂  
 (株)ビストナー キョーリンリメディオ(株)  
 ドクタープログラム(株) Kyorin USA, Inc.  
 Kyorin Europe GmbH ActivX Biosciences, Inc.  
 ビストナー番号投資事業有限責任組合

持分法適用会社2社：日清キョーリン製薬(株) 日本理化学薬品(株)

## <当期のポイント>

## 対前年

■ 売上高 81,070百万円 (+3,977百万円)

● 国内新医薬品 63,296百万円 (+6,107百万円)

07.3実績 08.3実績 (億円)

・ムコダイン 204 → 212 (+8)

・キプレス 150 → 191 (+41)

・ペンタサ 80 → 88 (+8)

・ウリトス - → 7 (+7)

\*一時金収入が増加、その他売上が減少

● 海外新医薬品 4,334百万円 (▲1,427百万円)

・ガチフロキサシン 32 → 30 (▲2)

\*BMS社テクイン販売中止、アラガン社ザイマーは続伸

・その他 22 → 10 (▲12)

\*一時金収入の減少

● 後発医薬品 5,088百万円 (▲646百万円)

\*品目整理の影響、受託品売上の減少(重点品目の売上は伸長)

● ヘルスケア 7,296百万円 (+22百万円)

・ミルトン 21 → 19 (▲2)

・ドクタープログラム 28 → 34 (+6)

● その他 1,054百万円 (▲79百万円)

# 損益計算書の概要：連結一②

(単位：百万円)

	07年3月期		08年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年増減額
売上高	77,093	100.0%	81,070	100.0%	5.2%	3,977
売上原価	30,620	39.7%	31,757	39.2%	3.7%	1,137
売上総利益	46,473	60.3%	49,312	60.8%	6.1%	2,839
販売費及び一般管理費 (うち研究費)	38,059 (8,609)	49.4% 11.2%	43,061 (10,826)	53.1% 13.4%	13.1% (25.7%)	5,002 (2,216)
営業利益	8,413	10.9%	6,251	7.7%	▲25.7%	▲2,162
営業外収益	902	1.2%	903	1.1%	0.1%	1
営業外費用	660	0.9%	510	0.6%	▲22.7%	▲149
経常利益	8,655	11.2%	6,643	8.2%	▲23.2%	▲2,011
特別利益	626	0.8%	43	0.0%	▲93.0%	▲582
特別損失	1,027	1.3%	1,068	1.3%	4.0%	41
税金等調整前 当期純利益	8,255	10.7%	5,619	6.9%	▲31.9%	▲2,635
法人税・住民税 及び事業税	3,100	4.0%	2,095	2.6%	▲32.4%	▲1,005
法人税等調整額	324	0.4%	1,333	1.6%	310.5%	1,009
当期純利益	4,842	6.3%	2,189	2.7%	▲54.8%	▲2,652

## <当期のポイント>

- ◆原価率：前年比 0.5ポイント低下 (39.7%→39.2%)  
\* 低下要因：自社品の新発売及び一時金収入の増加、  
能代工場減価償却費の減少
- ◆研究開発費率：前年比 2.2ポイント上昇(11.2%→13.4%)  
\* 86億円→108億円(約22億円増加)  
共同開発品の開発費用の期ズレ等(07.3→08.3)
- ◆販管費率(除R&D費)：前年比 1.6ポイント上昇  
(38.2%→39.8%)  
\* 295億円→322億円(約27億円増加)  
新薬上市並びに効能追加による販促費の増加及び  
ドクタープログラムの販売費増加
- 営業利益 6,251百万円(▲2,162百万円)  
\* 営業利益率は7.7%と3.2ポイント低下
- 当期純利益 2,189百万円(▲2,652百万円)  
\* 特別損失：約11億円  
\* キョーリンメディアにおける繰延税金資産取り崩し約3億円
- 配当 22円50銭  
\* 業績と配当性向を勘案し、当初配当予想の30円00銭  
を22円50銭へ修正



# 貸借対照表の概要：連結

(単位：百万円)

	07年3月期		08年3月期		
	実績	構成比	実績	構成比	前期末増減
<b>流動資産</b>	64,860	52.3%	66,016	53.9%	1,155
現金および預金	12,749		10,647		
受取手形及び売掛金	31,514		28,995		
有価証券	1,111		2,209		
棚卸資産	14,614		19,770		
その他流動資産	4,871		4,392		
<b>固定資産</b>	59,179	47.7%	56,382	46.1%	▲2,796
有形固定資産	19,637		18,214		
無形固定資産	4,116		2,356		
投資その他	35,424		35,811		
<b>資産合計</b>	124,039	100.0%	122,398	100.0%	▲1,641
<b>流動負債</b>	19,941	16.1%	19,201	15.7%	▲739
支払手形及び買掛金	9,687		10,792		
その他流動負債	10,253		8,409		
<b>固定負債</b>	5,920	4.7%	6,012	4.9%	92
<b>負債合計</b>	25,861	20.8%	25,214	20.6%	▲647
<b>株主資本</b>	96,922	78.2%	96,401	78.8%	▲520
評価・換算差額等	1,256	1.0%	782	0.6%	▲473
少数株主持分	—	—	—	—	—
<b>純資産合計</b>	98,178	79.2%	97,184	79.4%	▲994
<b>負債及び純資産合計</b>	124,039	100.0%	122,398	100.0%	▲1,641

## <当期のポイント>

■ 流動資産： 1,155百万円増

- ・現金、預金の減少 (2,101百万円減)
- ・受取手形、売掛金の減少 (2,518百万円減)
- ・棚卸資産の増加 (5,156百万円増)

■ 固定資産： 2,796百万円減

- ・有形固定資産の減少 (1,422百万円減)
- ・無形固定資産の減少 (1,760百万円減)

■ 流動負債： 739百万円減

- ・支払手形及び買掛金の増加(1,104百万円増)
- ・その他流動負債の減少 (1,844百万円減)

■ 固定負債： 92百万円増

# 研究開発費・設備投資・減価償却費の状況<連結>

(単位:百万円)

	04年3月期	05年3月期	06年3月期	07年3月期	08年3月期		09年3月期 (予想)
					実績	増減比	
研究開発費	8,219	12,698	10,107	8,609	10,826	+25.7%	12,200
設備投資	5,670	6,172	4,605	2,954	1,952	▲33.9%	2,600
減価償却費	4,774	3,894	3,646	4,544	4,536	▲0.2%	4,000

## <設備投資の状況(実績/予想)>

(実績)

工場設備

管理・販売設備

研究用設備

08年3月期実績

12億円

2億円

5億円

09年3月期予想

9億円

8億円

9億円

(予想)

工場設備

管理・販売設備

研究用設備

# 主要製品売上の状況



健康はキョーリンの願いです。

	04年3月期	05年3月期	06年3月期	07年3月期	08年3月期		
					実績	前 同 比	
国内新医薬品	キプレス (ロイコトリエン受容体拮抗剤)	98	118	134	150	191	26.9%
	ガチフロ(自社販売) (合成抗菌剤)	17	23	25	25	23	▲5.9%
	ムコダイン (去痰剤)	180	190	199	204	212	3.6%
	バクシダール (合成抗菌剤)	9	7	6	6	5	▲12.2%
	ケタス (気管支喘息・脳血管障害治療剤)	70	66	63	58	54	▲6.2%
	アブレース (抗潰瘍剤)	29	26	24	20	18	▲13.0%
	ロカルトロール (骨粗鬆症治療剤)	27	24	22	19	18	▲7.9%
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	60	64	73	80	88	9.3%
	ウリトス(自社販売) (過活動膀胱治療剤)	—	—	—	—	7	—
海外新医薬品	海外売上合計	85	88	86	58	43	▲24.8%
	ガチフロキサシン (バルク・ロイヤルティ含む)	71	80	67	32	30	▲7.2%
	ノルフロキサシン (バルク)	11	4	3	4	3	▲24.8%
	海外売上比率	13.1%	13.3%	11.6%	7.5%	5.4%	—
ヘルスケア	ミルトン (哺乳ビン・乳首消毒剤)	27	23	21	21	19	▲5.8%

09年3月期 (予想)
216
23
216
4
52
16
16
151
20

(単位:億円)

40
29
2
4.4%

21
----

# 主な業績項目の推移: 連結

	04年3月期	05年3月期	06年3月期	07年3月期	08年3月期	09年3月期(予想)
売上高 (輸出高)	65,061 (8,533)	66,296 (8,838)	74,054 (8,575)	77,093 (5,762)	81,070 (4,367)	90,400 (4,000)
売上原価 (売上原価率)%	22,389 (34.4%)	22,682 (34.2%)	26,515 (35.8%)	30,620 (39.7%)	31,757 (39.2%)	—
販売費及び一般管理費 (販管费率)%	33,905 (52.1%)	37,747 (57.0%)	38,549 (52.1%)	38,059 (49.4%)	43,061 (53.1%)	—
うち研究開発費 (研究開発费率)%	8,219 (12.6%)	12,698 (19.2%)	10,107 (13.6%)	8,609 (11.2%)	10,826 (13.4%)	12,200 (13.5%)
営業利益 (営業利益率)%	8,766 (13.5%)	5,866 (8.8%)	8,989 (12.1%)	8,413 (10.9%)	6,251 (7.7%)	8,000 (8.8%)
経常利益 (経常利益率)%	8,597 (13.2%)	6,430 (9.7%)	9,465 (12.8%)	8,655 (11.2%)	6,643 (8.2%)	8,400 (9.3%)
当期純利益 (当期純利益率)%	5,692 (8.7%)	2,013 (3.1%)	5,228 (7.1%)	4,842 (6.3%)	2,189 (2.7%)	4,900 (5.4%)
一株当たり当期利益(円)	68.76円	26.48円	69.74円	64.97円	29.26円	65.49円
資本金	4,317	4,317	4,317	700	700	
総資産	121,355	109,234	121,044	124,039	122,398	
株主資本	91,856	90,544	94,752	96,922	96,401	
純資産	—	—	—	98,178	97,184	
一株当たり純資産(円)	1,234.80円	1,218.22円	1,275.15円	1,311.17円	1,298.89円	
自己資本利益率%	5.8%	2.2%	5.6%	5.0%	2.2%	
自己資本比率%	75.7%	82.9%	78.3%	79.2%	79.4%	
人員(人)	1,652人	1,703人	1,823人	1,932人	2,003人	
設備投資	5,670	6,172	4,605	2,954	1,952	2,600
減価償却費	4,774	3,894	3,646	4,544	4,536	4,000

\* 06年3月期業績(連結)までは杏林製薬(株)の数値、07年3月期以降の業績及び09年3月期予想は(株)キョーリンの数値を示す

# 損益計算書の概要：杏林製薬単体①

(単位：百万円)

	07年3月期		08年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年増減額
売上高	66,052	100.0%	70,480	100.0%	6.7%	▲4,427
新医薬品	62,709	94.9%	67,452	95.7%	7.6%	▲4,742
国内	57,188	86.6%	63,296	89.8%	10.7%	▲6,107
海外	5,521	8.3%	4,155	5.9%	▲24.7%	▲1,365
後発医薬品	383	0.6%	271	0.4%	▲29.2%	▲111
ヘルスケア	2,959	4.5%	2,756	3.9%	▲6.9%	▲203

## <当期のポイント>

## 対前年

- 売上高 70,480百万円 (+4,427百万円)
  - 国内新医薬品 63,296百万円 (+6,107百万円)
- 07.3実績    08.3実績 (億円)
- ・ムコダイン 204 → 212 (+8)
  - ・キプレス 150 → 191 (+41)
  - ・ペンタサ 80 → 88 (+8)
  - ・ウリトス(新製品) - → 7 (+7)
- \* 一時金収入が増加、その他売上が減少
- 海外新医薬品 4,155百万円 (▲1,365百万円)
- ・ガチフロキサシン 32 → 30 (▲2)
- \* 米国BMS社テクイン販売中止、アラガン社ザイマーは続伸
- ・その他 19 → 9 (▲10)
- \* 一時金収入の減少
- 後発医薬品 271百万円 (▲111百万円)
  - ヘルスケア 2,756百万円 (▲203百万円)
  - ・ミルトン 21 → 19 (▲2)

# 損益計算書の概要：杏林製薬単体－②

(単位：百万円)

	07年3月期		08年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年増減額
売上高	66,052	100.0%	70,480	100.0%	6.7%	4,427
売上原価	23,815	36.1%	25,217	35.8%	5.9%	1,402
売上総利益	42,237	63.9%	45,262	64.2%	7.2%	3,024
販売費及び一般管理費 (うち研究費)	34,623 (8,216)	52.4% 12.4%	38,319 (9,959)	54.4% 14.1%	10.7% (21.2%)	3,696 (1,743)
営業利益	7,613	11.5%	6,942	9.8%	▲8.8%	▲671
営業外収益	761	1.2%	676	1.0%	▲11.2%	▲85
営業外費用	760	1.2%	289	0.4%	▲61.9%	▲470
経常利益	7,615	11.5%	7,328	10.4%	▲3.8%	▲286
特別利益	583	0.9%	15	0.0%	▲97.3%	▲568
特別損失	300	0.5%	530	0.7%	76.8%	230
税引前当期純利益	7,898	11.9%	6,813	9.7%	▲13.7%	▲1,085
法人税・住民税 及び事業税	2,853	4.3%	1,980	2.8%	▲30.6%	▲872
法人税等調整額	347	0.5%	1,056	1.5%	204.3%	709
当期純利益	4,697	7.1%	3,776	5.4%	▲19.6%	▲921

## 当期のポイント

## 対前年

- ◆原価率：前年比 0.3ポイント低下  
(36.1%→35.8%)  
\* 低下要因：自社品の新発売及び一時金収入の増加、  
能代工場減価償却費の減少
- ◆研究開発費率：前年比 1.7ポイント上昇  
(12.4%→14.1%)  
\* 82億円→100億円(18億円増加)  
共同開発品の開発費用の期ズレ等(07.3→08.3)
- ◆販管費率(除R&D費)：前年比 0.2ポイント上昇  
(40.0%→40.2%)  
\* 264億円→284億円(20億円増加)  
新薬上市並びに効能追加による販促費の増加
- 営業利益 6,942百万円  
(▲671百万円)  
営業利益率は9.8%と1.7ポイント低下
- 当期純利益 3,776百万円  
(▲921百万円)

# 貸借対照表の概要：杏林製薬単体

(単位:百万円)

	07年3月期		08年3月期		
	実績	構成比	実績	構成比	前期末増減
<b>流動資産</b>	<b>55,296</b>	<b>52.1%</b>	<b>57,044</b>	<b>54.4%</b>	<b>1,747</b>
現金および預金	9,337		7,755		
売掛金	27,570		25,895		
有価証券	999		2,007		
棚卸資産	12,596		17,156		
その他流動資産	4,791		4,229		
<b>固定資産</b>	<b>50,745</b>	<b>47.9%</b>	<b>47,866</b>	<b>45.6%</b>	<b>▲2,879</b>
有形固定資産	16,055		14,771		
無形固定資産	2,864		1,450		
投資その他	31,825		31,644		
<b>資産合計</b>	<b>106,042</b>	<b>100.0%</b>	<b>104,910</b>	<b>100.0%</b>	<b>▲1,132</b>
<b>流動負債</b>	<b>14,655</b>	<b>13.8%</b>	<b>13,824</b>	<b>13.2%</b>	<b>▲830</b>
支払手形及び買掛金	6,515		7,968		
その他流動負債	8,139		5,855		
<b>固定負債</b>	<b>4,589</b>	<b>4.3%</b>	<b>4,293</b>	<b>4.1%</b>	<b>▲295</b>
<b>負債合計</b>	<b>19,244</b>	<b>18.1%</b>	<b>18,118</b>	<b>17.3%</b>	<b>▲1,126</b>
<b>株主資本</b>	<b>85,706</b>	<b>80.8%</b>	<b>86,140</b>	<b>82.1%</b>	<b>434</b>
評価・換算差額等	1,091	1.1%	651	0.6%	▲440
<b>純資産合計</b>	<b>86,797</b>	<b>81.9%</b>	<b>86,792</b>	<b>82.7%</b>	<b>▲5</b>
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>106,042</b>	<b>100.0%</b>	<b>104,910</b>	<b>100.0%</b>	<b>▲1,132</b>

## <当期のポイント>

- 流動資産： 1,747百万円増
  - ・現金及び預金の減少 (1,582百万円減)
  - ・売掛金の減少 (1,675百万円減)
  - ・棚卸資産の増加 (4,560百万円増)
- 固定資産： 2,879百万円減
  - ・有形固定資産の減少 (1,284百万円減)
  - ・無形固定資産の減少 (1,414百万円減)
- 流動負債： 830百万円減
  - ・支払手形及び買掛金の増加 (1,453百万円増)
  - ・その他流動負債の減少 (2,284百万円減)
- 固定負債： 295百万円減

# 主な業績項目の推移: 杏林製薬単体

(単位: 百万円)

	04年3月期	05年3月期	06年3月期	07年3月期	08年3月期	09年3月期 (予想)
売上高 (輸出高)	63,589 (8,533)	64,938 (8,838)	67,357 (8,331)	66,052 (5,521)	70,480 (4,155)	77,800 (3,900)
売上原価 (売上原価率)%	21,273 (33.5%)	21,653 (33.3%)	21,821 (32.4%)	23,815 (36.1%)	25,217 (35.8%)	—
販売費及び一般管理費 (販管费率)%	33,515 (52.7%)	37,373 (57.6%)	36,762 (54.6%)	34,623 (52.4%)	38,319 (54.4%)	—
うち研究開発費 (研究開発费率)%	8,219 (12.9%)	12,698 (19.6%)	10,013 (14.9%)	8,216 (12.4%)	9,959 (14.1%)	11,500 (14.8%)
営業利益 (営業利益率)%	8,799 (13.8%)	5,911 (9.1%)	8,773 (13.0%)	7,613 (11.5%)	6,942 (9.8%)	7,600 (9.8%)
経常利益 (経常利益率)%	8,376 (13.2%)	5,723 (8.8%)	8,377 (12.4%)	7,615 (11.5%)	7,328 (10.4%)	8,400 (10.8%)
当期純利益 (当期純利益率)%	5,512 (8.7%)	1,615 (2.5%)	4,771 (7.0%)	4,697 (7.1%)	3,776 (5.4%)	5,100 (6.6%)
一株当たり当期利益(円)	66.59円	21.19円	63.64円	63.25円	50.85円	
資本金	4,317	4,317	4,317	4,317	4,317	
総資産	119,604	106,264	111,978	106,042	104,910	
株主資本	90,543	88,839	92,525	85,706	86,140	
純資産	—	—	—	86,797	86,792	
一株当たり純資産(円)	1,217.09円	1,195.26円	1,245.22円	1,168.71円	1,168.63円	
自己資本利益率%	5.7%	1.8%	5.3%	5.2%	4.4%	
自己資本比率%	75.7%	83.6%	82.6%	81.9%	82.7%	
人員(人)	1,597人	1,619人	1,502人	1,488人	1,517人	
設備投資	5,668	6,171	4,455	1,322	1,350	1,800
減価償却費	4,763	3,883	3,307	3,997	3,844	3,200